

山雲水月

発行責任者 龍源寺 住職 渡辺龍道

仏像修復報告特集

第29回子供禪の集い

日程が下記予定表の通り決定いたしました。宜しくお願ひ申し上げます。

対象：小学校3年～6年生

平成22年

龍源寺年間行事予定

- 1/1～1/3 年頭祈禱・年賀受
- 1/4～1/7 年始挨拶
- ※1/10 年賀寺例
- ※2/3 大節分会
- ※2/15 釈尊涅槃会
- ※3/14 大般若・大施食会法要
- ※3月中旬 筆供養法要
- 3/18～3/24 春季彼岸会
- 3/23 旧蚕影山例祭日
- ※4/8 釈尊降誕会(花祭り)
- 4/29 大施食会兼蚕影山例祭法要
- 7/13～7/16 京浜地区檀信徒棚経

※7/21～7/22

第29回子供禪の集い

- 8月上旬 夏季おてんま
- ※8/10 中元寺例
- 8/13～8/16 盂蘭盆会
- 9/20～9/26 秋季彼岸会
- ※11/3 檀信徒参拝研修旅行
- 12月上旬 冬季おてんま
- ※12/8 釈尊成道会
- ※12/10 歳暮寺例
- ※12/31 除夜会
- ※毎週土・日曜日 書道教室
- ※毎週水曜日 定例坐禅会
- ※隔週水曜日 梅花講・琴教室・華道教室
- ※は、御本寺仁叟寺にて開催
- ※宗務所執務日は月水金



左より、地藏菩薩・普賢菩薩・御本尊様釈迦如来・文殊菩薩・観世音菩薩像
←修復後(上段)・修復前(下段)

既に前号でもお伝えした通り、龍源寺御本尊様・釈迦如来像はじめ五体の諸菩薩像が修復を施され帰山いたしました。去る4月29日の当寺大施食会及び蚕影山例祭に合わせて、御本寺仁叟寺御住職渡辺啓司老師御導師の下、改めて開眼供養を参列された皆様方と勤める事が出来ました。ありがとうございました。

今号の龍源寺報『山雲水月』は、龍源寺歴代住職と同じ数となります第30号となります。修復事業についてのご報告を中心にご紹介をさせていただこうと思います。

なお、式の差定(式次第)は下記の通りです。

本尊仏像及び開基位牌開眼會併修蚕影山例祭法會差定

三會上殿 三寶御和讃奉詠にてお迎え 七下鐘導師上殿
拈香法語 点眼(本尊他仏像五体、開基牌、東司浴司牌)
献湯菓茶普同三拜 般若心經 消災妙吉祥陀羅尼(導師理趣分轉翻了而歸位まで) 像塔
開眼會回向 普同三拜 謝拜 散堂 聖號奉詠にてお見送り



↑開眼會法要風景

新聞に掲載されました

【養蚕の歴史刻む碑】

養蚕の歴史を後世に伝えようと、高崎市吉井町多胡の龍源寺（渡辺龍道住職）は、繭の形をした石碑「蚕影山（こかげさん）縁起碑」を寺の山門北側に建立した。29日には檀家（だんか）ら約100人が参加し、除幕式と蚕を供養する蚕影山例祭法要が行われる。

同寺は、養蚕に御利益のある蚕影山大権現を祭り、地域の信仰を集めている。蚕供養や養蚕の発展を願い、その恩恵に感謝する例祭は400年以上続く地域の伝統行事で、毎年春に行われている。

みかげ石製の碑の大きさは、横193㍍、縦175㍍。「明治大正昭和時代は蚕影山例祭日には、参拝者が繭玉を手を成し蚕影山の最盛期を迎えた」と当時の様子などが紹介されているほか、養蚕をはじめとする産業が盛んだった多胡郡や寺、養蚕の歴史が刻まれている。

「多胡早生（たごわせ）という蚕の飼育用の桑があるくらい多胡地区は養蚕が盛んで、お蚕さまのおかげで、地域は発展してきた。その養蚕の功績を残したかった。住民からも養蚕の歴史を残したいとの要望が多かった」と渡辺住職。

養蚕農家は、現在では大幅に減ってしまっただが、例祭は地元の檀家らによってしっかりと受け継がれている。（上毛新聞4月29日付、地域面より転載）

※下記ネットニュースでも紹介されております。

<http://www.raijin.com/news/a/2010/04/29/news03.htm>



↑ 建立された「蚕影山縁起碑」と渡辺住職

蚕影山縁起碑除幕式

住職が曹洞宗群馬県宗務所（群馬県高崎市下横町1-7向雲寺様敷地内 執務日は月水金曜日の週3日）で梅花主事の役を頂戴しておりますご縁で、その所長老師でございませう群馬県邑楽郡邑楽町永明寺御住職松本泰恵老師に蚕影山縁起碑の除幕式導師を御依頼申し上げます。

快諾して下さい、4月29日の大施食会及び修復された諸仏像の開眼会法要と共に同式が荘厳に修行することが出来ました。式では、浄道場といいその土地を清めたほか、参列された皆様にも焼香をしていただきました。

なお、式の差定（式次第）は下記の通りです。

蚕影山顕彰碑除幕式差定 三會上殿 七下鐘導師上殿 拈香法語 上香普同立三拜 浄道場 消災妙吉祥陀羅尼三返 回向 普同立三拜 散堂



↑ 蚕影山縁起碑除幕式法要風景

仁叟寺通信-30- 「特派梅花布教講習会」



↑ 曹洞宗群馬県宗務所主催梅花流特派師範巡回講習会風景（会場・仁叟寺）

去る6月9日に仁叟寺にて梅花流特派布教講習会が開催されました。講員さんはもとより近隣の住職さん、寺族さんはじめ関係者約120名もの方々が集い梅花流の講習を受けておりました。同講習会は、住職が梅花主事として奉職しております曹洞宗群馬県宗務所主催行事で、毎年県内6ヶ所を巡回します。仁叟寺で開催されました講習会は、高崎藤岡安中地区の合同講習会です。今年は、三重県伊賀市來迎寺御住職の辻村京俊特派師範老師が県内を廻り、梅花流の布教教化にご尽力賜りました。参加された方にも非常に好評であり、実りある講習会をお勤めいただきましたこと、ありがたく思っております。

龍源寺探索-27- 「開基牌」

今回の探索では、開基牌をご紹介します。龍源寺の開基は江戸時代初期に当地を治めておりました地頭・門奈六左衛門と伝えられております。しかし、位牌は明治期の火災に遭い焼失。今年に新たに新調し、4月29日の仏像修復開眼式に併せて仁叟寺住職老師により開眼供養法要を行いました。位牌は黒檀製上等猫丸位牌。表には御夫婦の御戒名「普門院殿含光月城大居士」「守教院妙含月昌信女」と彫られ、現在は本堂須彌壇上にて安置され、お祀りさせております。



↑ 開基牌
（左表面、右裏面）

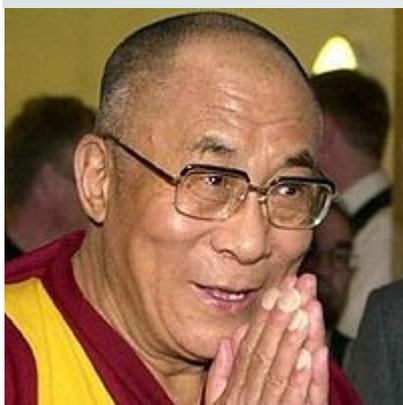
龍源寺住職、正教師に昇等補任

龍源寺住職の僧階が一つ上がり、一等教師から正教師へと補任されました。4月29日の大施食会に併せ、曹洞宗群馬県宗務所長松本泰患老師より補任状が授与されました。まだまだ浅学非才ではございますが、住職として、更なる精進をお誓いし、寺門興隆並びに地域社会の為にもお勤めをしっかりとさせていただく所存です。

→ 松本所長老師より正教師補任状が授与される



ダライ・ラマ14世講演会（於、大本山總持寺）



ダライ・ラマ14世

去る6月27日（日）に、チベットのダライ・ラマ法王が曹洞宗大本山總持寺に見えられ、御講演を賜りました。大本山總持寺は住職が平成11年～同13年までの2年間、安居修行をさせていただきました曹洞宗の大本山様で神奈川県横浜市鶴見区鶴見にございます。

ご縁がありまして、同講演会の撮影係を拝命。友人の撮影スタッフと共に会に参加して参りました。講演会の様子はDVDに焼かせていただき、後ほど希望者に頒布させていただければと思っております。御希望する方は、龍源寺住職まで御一報いただければありがたいと存じます。

なお、ダライ・ラマ法王につきましては、以下御紹介をさせていただきます。ありがたいご縁に触れる事が出来ました。関係者各位に改めまして感謝申し上げます次第です。



ダライ・ラマ14世（1935年7月6日（チベット暦5月6日）～在位1940年～）



チベット旗「雪山獅子旗」

※1912年制定・日本人学

チベット民族のあいだで尊敬されている宗教指導者であり、チベット仏教のほかの教派を超えて大きな影響力を持つ。また、チベット仏教のゲルク派の最高位の仏教博士号（ゲシェ・ランパ）を持つ僧侶でもある。チベット仏教の全宗派の伝統の教えを継承し研鑽を積んでおり、教え・実践両面のすべての領域における最高の権威者（チューキ・ゲポ；法王）として広く認められている。

ガンデンポタン（チベット亡命政府）の長としてだけでなくチベット仏教の指導者としても、アメリカ、ヨーロッパ諸国、日本を始めとする世界各地をたびたび訪れ、仏教の智慧に関する講演、宗教的な対話に関する講演も活発に行っている。1989年には、世界平和やチベット宗教・文化の普及に対する貢献が高く評価され、ノーベル平和賞を受賞した。ノーベル平和賞の受賞に対しても中華人民共和国政府は完全無視を決め込んだだけでなく、関連図書を持ち込めば所持さえも禁止している。

チベットは、第二次世界大戦後に中華人民共和国政府に武力制圧され、現在に至っている。平和裏に解決を図るダライ・ラマ14世も結局はインドに亡命を余儀なくされている。チベット仏教の弾圧や人権侵害事案も多数報告されている。日本とも関係の深いチベットの自主独立を仏教的背景に基づく平和的な方法によって解決が求められている。

行雲流水（編集後記）

編集人 住職 波辺龍道

早いもので、龍源寺報『山雲水月』も第30号となりました。住職を拝命いたしました平成14年正月から刊行させていただいております。新聞記者として奉職しておりました経験を住職地に活かさないものかと思ひ続けさせていただいております。

さて、今回は先般修行されました本尊様修復事業及び蚕影山縁起碑除幕等、臨時法要のご報告を主にさせていただきました。350年振りに修復が施された御本尊様はじめ諸仏像も見違える程綺麗になりました。檀信徒始め関係者各位に、改めまして厚く感謝申し上げます。合掌。

